

PRESS RELEASE

本学外科学講座・里井壯平准教授らの研究チームが、世界で初めて有効性を確認

膵臓がん患者に有効な治療 臨床試験が始まっています

米国外科学会の公式機関誌「Annals of Surgery」に論文が掲載

1928年創立の私立医科大学、学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）外科学講座・里井壯平准教授らの研究チームは、腹膜に転移した膵臓がん患者を対象に臨床試験を実施。その有効性を確認しました。また、研究成果をまとめた論文が、3月11日米国外科学会公式機関誌「Annals of Surgery(※)」に掲載。発表されました。※…インパクトファクター:8.327(2014/2015)

膵臓がん全体の5年生存率は約5%とされており、致死率が高い疾患の一つ。中でも、腹膜に転移した膵臓がんは通常の化学療法による制御が難しく、有効な治療方法は確立されていないのが現状です。そこで今回、里井准教授らの研究チームは、S-1+パクリタキセルの静脈注射と腹腔内への直接投与に着目し、多施設共同臨床試験（第2相）を行いました。その結果、良好な生存期間中央値（MST:16.3か月）、腫瘍縮小率36%、切除率24%が得られることを報告しました。

里井准教授らの治療法が実用化された場合、膵臓がんが腹膜に転移した患者さんに多く発症する難治性腹水、腹部膨満感、栄養低下などを緩和するとともに、生存期間の延長が期待されています。

■本リリースのポイント

- ・ 腹膜転移膵臓がん患者に有効な治療法を発見
- ・ 3/11（金）「Annals of Surgery」に論文が掲載
- ・ 新たに、標準療法と併用した第1/2相試験もスタート

なお、現在は従来標準的に用いられてきたゲムシタビンとアブラキサン[®]の静脈注射と、パクリタキセルの腹腔内投与を併用した新たな治療法について、第1/2相試験を実施中です。

<本件に関するお問合せ> ※取材撮影をご希望の際は、事前に以下の連絡先までご一報ください。

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 担当：田村、岡田、小森

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

TEL：072-804-2126 PHS：070-5264-3017、070-5347-3702

FAX：072-804-2547 E-MAIL：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

【本臨床研究に関する問い合わせ先】
関西医科大学 臨床研究支援センター
代表番号 072-804-0101

別添資料

■里井准教授からのメッセージ

いまだ全体の5年生存率が5%程度である膵臓がんに対して、工夫を重ねて治療成績を改善し、次の20年で5年生存率を30%まで高めることを目標にしています。外科のメンバーはもとより、消化器内科や放射線科、化学療法センターとも協力して、研究を進めていきたいと思っています。

■論文名：

腹膜転移を有する膵癌患者に対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法の多施設共同第II相試験

Multi-center phase II study of intravenous and intraperitoneal paclitaxel with S-1 for pancreatic ductal adenocarcinoma patients with peritoneal metastasis

■研究チーム：

関西医科大学 外科学講座 里井壮平、柳本泰明、山本智久、権 雅憲
名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器外科学 藤井 努、山田 豪、小寺泰弘
東北大学大学院 医学系研究科 消化器外科学分野 元井冬彦、水間正道、海野倫明
がん・感染症センター都立駒込病院 外科 倉田昌直、本田五郎
東京大学大学院 医学系研究科 消化器内科学 高原楠晃、伊佐山浩通
東京大学附属病院 外来化学療法部 石神浩徳

【 大 学 概 要 】

法 人 名：学校法人 関西医科大学
所 在 地：大阪府枚方市新町 2-5-1
創 立 年：1928 年
理 事 長：山下敏夫
学 長：友田幸一
事 業 内 容：医学教育、医学研究、診療
電 話 番 号：072-804-0101（代表）
WEBSITE：http://www.kmu.ac.jp/index.html



<本件に関するお問合せ> ※取材撮影をご希望の際は、事前に以下の連絡先までご一報ください。

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 担当：田村、岡田、小森

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

TEL：072-804-2126 PHS：070-5264-3017、070-5347-3702

FAX：072-804-2547 E-MAIL：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

【本臨床研究に関する問い合わせ先】
関西医科大学 臨床研究支援センター
代表番号 072-804-0101

別添資料

■解説および補足

・S-1+パクリタキセル (PTX: Paclitaxel)

今回の臨床試験で患者さんに投与した薬剤。静脈注射と腹腔内への直接投与を行うことで、得られた MST は 16.3 か月 (※標準治療＝ゲムシタビン＋アブラキサンを用いた治療の場合、MST8.5 か月)。

・化学療法と外科手術の併用

S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用治療により、腹膜転移が消失し脾臓がん自体が切除可能となった場合、MST26 か月という良好な結果が示されました。

・MST とは

Median Survival Time、生存期間中央値。対象となる患者集団の中で、半数の患者さんが死亡するまでの期間のこと。

・今後のスケジュール

現在は新たに、「ゲムシタビン＋アブラキサン」の静脈注射とパクリタキセルの腹腔内投与を併用した治療法の、第Ⅰ/Ⅱ相試験を実施中です。また、さらに対象者を拡大して「S-1+パクリタキセル」と標準治療である「ゲムシタビン＋アブラキサン」を比較するための、第Ⅲ相臨床試験を計画しています。

・今後の課題

脾臓癌治療について、パクリタキセルとその腹腔内投与は保険適用外であり、多大なコストの負担が課題です。そのため、現在は保険診療との併用が可能となる先進医療としての承認を申請中です。

<本件に関するお問合せ> ※取材撮影をご希望の際は、事前に以下の連絡先までご一報ください。

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 担当：田村、岡田、小森

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

TEL：072-804-2126 PHS：070-5264-3017、070-5347-3702

FAX：072-804-2547 E-MAIL：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

【本臨床研究に関する問い合わせ先】
関西医科大学 臨床研究支援センター
代表番号 072-804-0101